講義名	地誌学					授業形態	
担当教員	藤原　喜美子	開講期・曜日・時限	後期 金曜日 １時限				
		単位数	2	履修開始年次	１年生	ナンバリング・コード	

主題と概要

テーマ：地誌から見た日本の地域性
　この講義の目的は、日本の各地域にねざす地域性を読み取り、理解していくことにある。地誌は、各地域の自然、社会、文化などの特性を記述したものである。そこで、近世（江戸時代）の頃に記された地誌（紀行文）を題材に取り上げ、現在の様子と比較しながら、各地域の生活文化の特色を考察する。

到達目標

学生が、講義の内容を理解した上で、地誌（紀行文）に記された当時の生活の特色(地域性)に気付き、自らの言葉で説明できるようになる。

提出課題

① 講義では、毎回、感想文などを記入し、小レポートとして提出してもらう。感想文のテーマは、授業ごとに伝える。
② 小レポートとは別に、講義に関連した指定のテーマについて、学期末レポートの提出を求める。このレポート課題の詳細は別途、11月前半に、講義中の説明ならびにRYUKA portalの掲示を通して指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

毎回の講義に書いてもらう感想文の内容は、提出後に次の回の講義などで、日本の生活の特色（地域性）の事例として紹介する。

評価の基準

評価は、①平常点（各回の感想文などを記した15回分の小レポート、60点）、②学期末レポート（40点）を総合して行う。
評価の基準は、第１回の講義の時にシラバスの用紙を配付し、詳細を伝える。

履修にあたっての注意・助言他

１．【重要】 この講義では、プリント資料として、主に「近世(江戸時代)に記された地誌(紀行文)」を使用する。 現代の文章とは、かなり異なる表現や記述が多くみられるので、辞書を使用して言葉の意味を調べるなど、予習や復習を各自でしっかりと行うこと。
２．予習や復習で調べた内容や講義中に大事だと思う箇所は、メモをとること。
３．講義中に私語をして、他の受講生の妨げにならないように注意すること。

教科書

・使用しない.				

参考図書

・なし.				

その他

＜プリント資料＞
　各時間、プリント資料を配布する。
　※プリント資料は無くなさいように保存すること。
＜参考文献＞
　講義中に適宜、紹介する。

授業計画

講義の進め方の詳細は、教室で行う第１回の講義で説明する。

１．　地誌学とは
　　地誌をどのようにとらえるか
２．菅江真澄遊覧記から見た地誌①
　　青森の生活
３．菅江真澄遊覧記から見た地誌②
　　秋田の生活
４．東遊雑記から見た地誌①
　　山形の生活
５．東遊雑記から見た地誌②
　　岩手の生活
６．　東遊雑記から見た地誌③
　　宮城の生活
７．利根川図志から見た地誌①
　　利根川の利用
８．利根川図志から見た地誌②
　　利根川沿いの神社
９．利根川図志から見た地誌③
　　江戸の生活
10．秋山紀行から見た地誌
　　長野の生活
11．和州巡覧記から見た地誌
　　奈良の寺社
12．都名所図会から見た地誌①
　　京都の生活
13．都名所図会から見た地誌②
　　京都の寺社
14．播州名所巡覧図会から見た地誌
　　兵庫の生活
15．江漢西遊日記から見た地誌
　　三重の生活

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

〈予習〉
　次回の講義範囲の準備学習として、シラバスの授業計画に記してあるテーマを確認し、そのテーマについて興味のある事柄を１つ調べる。また、各回の講義の最後に、翌週の講義のキーワードを紹介するので、翌週までにキーワードなどの言葉の意味を調べておく（約2時間）。
〈復習〉
　講義終了時、その日の講義内容を確認しながら、内容に関わる感想文を出席カードに記入する。また、各自で、その日の講義の要点（キーワードやポイント）等を確認する（約2時間）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

　この授業は、全学共通科目の教養科目として、上記の主題と概要、到達目標の修得を通じて、本学のディプロマ・ポリシーのうち、特に次のような人材を育成することに貢献できる。
（2）知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材
・課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査、整理することができる(情報収集力)
・収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる（情報分析力）
・現象や事実のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定することができる(課題発見力)
・さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた道筋や段取りを明らかにした上で、具体化することができる(構想力)

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

この講義は、プリントを用いた講義の形式で進める。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。授業担当者は日本民俗学（生活文化史）に関わる現地調査や文化財保護業務の実務経験を有しており、その実務経験を活用し、地域の特性を紹介しながら授業を行う。

備考

《受講生へのメッセージ》
①　講義の進め方の詳細は、教室で行う第１回の講義で説明する。教室では座席の間隔をあけ、教室の換気や手の消毒を励行し、感染症拡大の防止に努める。

②　万が一、一時的に通学困難になった場合、講義資料の配付や課題等の連絡は、メールで個別に連絡し、必ず対応させていただく。

③　講義に使う資料は、「江戸時代（近世）を生きた人々が残した記録」である。江戸時代に見聞した事や考えた事など、当時の生活の様子が記録として残り、その当時の生活を知る貴重な資料として現在に伝えられている。資料は、当時の人々の声を聞くことができる大事なものである。現在との類似点もあれば、相違点もある。そこで、テーマごとに、現在の生活と比較しながら資料を読んでもらいたい。
　一方、この講義を通して、日頃から自分の周囲の景色をながめ、改めて周囲の事柄に意識を持つきっかけにしてもらいたいと思う。